

大切な遺跡を未来に残す

取掛西貝塚の調査は、平成 11(1997)年に行われた1回目の調査から始まります。平成 20(2008)年の5回目の調査では、1万年前の縄文時代早期の住居や貝塚、そして動物骨集中が見つかりました。

平成 28(2016)年から令和元(2019)年、遺跡を保存し未来に残すため、船橋市では初となる国指定史跡を目指し、地元の方々にも協力いただき、遺跡の内容を詳しく知るための発掘調査などを行いました。

現在、船橋市では遺跡の保存に向けて取り組んでいるところです。



土層や石層は見つかるかな? 発掘体験中!

地面の下に残る1万年前の人の暮らしを復元するために調査研究に取り組んでいます。それらの成果は文化課 Facebook でお知らせします。お楽しみに!



船橋市教育委員会文化課
埋蔵文化財調査事務所
調査担当者

千葉県 船橋市

とり かけ にし かい づか 取掛西貝塚

ってどんな遺跡?



取掛西貝塚の約1万年前の土



畑の下から土層が露々



台地上に遺跡が広がっています

もっと知りたい! 取掛西貝塚

現在の取掛西貝塚の大部分は、発掘調査後に埋め戻され、畑として耕作をしているため、遺跡を見ることはできません。

船橋市の縄文時代を専門とした博物館である飛ノ台史跡公園博物館では、取掛西貝塚の貝層の剥ぎ取りなどを展示しています。是非、訪れてみてください。



屋外の遺跡展示と博物館で縄文時代を体験!

飛ノ台史跡公園博物館

〒273-0021 船橋市海神 4-27-2 電話: 047-495-1325

「ふなばしの遺跡」

好評発売中!!

船橋市内の遺跡を豊富な写真でわかりやすく紹介した本です。取掛西貝塚もさらに詳しく解説しています。

A4 カラー 44頁 / 300円

飛ノ台史跡公園博物館、郷土資料館、市内図書館、文化課で販売しています。



貝塚から見つかるのは貝だけではない? 何があるかな?

発行 船橋市教育委員会文化課

令和 3(2021)年 ●月 ●日発行

船橋市湊町 2-10-25 電話: 047-436-2887

HP・Facebookでも情報発信中!

取掛西貝塚の調査の状況や遺跡見学会・講演会などの情報は、文化課のホームページやフェイスブックでお知らせしています。



船橋市文化課

船橋の畑の下に 1万年前の縄文ワールド

「遺跡」と聞くと、どこか遠くにあるもの…そんな風に考える方もいるかもしれませんが、
取掛西貝塚は、^{ほなみちよう} ^{こめがかりやう} 飯山満町と米ヶ崎町にまたがる台地上の畑のわずかに 30cm 下のところに長い間眠っていたのです。

約 76,000 m² という広大な遺跡を探る調査が進み、全国的にも貴重な約 1 万年前の縄文時代早期の遺跡であることがわかり、当時の人々の生活の痕跡が明らかになってきました。この時代の人々の生活はどのような様子だったのでしょうか? 縄文時代の世界をのぞいてみましょう!



1万年前の 関東最大級のムラ

取掛西貝塚では、約1万年前の縄文時代早期の竪穴住居跡がこれまでに58軒みつき、東西約500mの範囲に広がる大集落であったことがわかりました。この集落の大きさは、この時期としては関東最大級です。



- 縄文時代早期 竪穴住居跡 (Red dot)
- 縄文時代前期 竪穴住居跡 (Green dot)
- 弥生時代中期 竪穴住居跡 (Orange dot)

台地の広い範囲に縄文時代早期の竪穴住居跡が広がっています。取掛西貝塚は縄文時代前期や弥生時代中期の竪穴住居跡もみつかっています。



貝塚 すごいぜ!

取掛西貝塚からは使われなくなった住居に貝殻などが捨てられてきた貝塚が見つかっています。1万年前の気候は最終氷期が終わり、気温が上昇しはじめていましたが、東京湾の海面は今より約40mも低く、海岸は今より遠くにありました。取掛西貝塚の貝は99%が河口に生息するヤマトシジミで、今の地形から想像するよりも遠くから運ばれたようです。貝塚は縄文人たちが食べ終わった貝殻・骨などを捨てた跡で、通常、土の中では腐ってなくなってしまうものが貝殻のカルシウムに保護されて残っているタイムカプセルなのです。また貝塚の下からはイノシシやシカの頭の骨を並べた跡が見つかりました。動物儀礼跡だとすれば日本最古のものです!



白く見えるのはヤマトシジミの貝殻です



貝層の下からは並べられた動物(イノシシ・シカ)の頭骨が出土しました

縄文人の暮らし

取掛西貝塚に住んでいた縄文人たちはどんな暮らしをしていたのでしょうか。当時の人々がくらしの中で使っていた道具はもろんのこと、身に付けていた装飾品も出土しました。装飾品は、ツノガイで作られたビーズがこれまでに2000点以上出土しています。今よりもずっと厳しい暮らしをしていたと考えられる縄文人には、装飾品は生活する上で意味のない物にみえますが、身の回りを飾ることはなんらかの大切な意味があったのかもしれない。

土器は、縄文時代に初めて作られた道具で、現在の鍋のように主に煮炊きに使われていました。大量に出土したシジミは煮込んでスープにしていたのでしょうか。取掛西貝塚の土器は関東各地の特徴を持ったものがあります。どうやらよそから運ばれてきた土器もあるようです。取掛西貝塚は、各地の人々が交流した場所だったのかもかもしれません。

動物の骨や角で作られた道具は、精巧に加工されたものが出土しました。なかでも針は現在と同じ形をしています。皮などを縫っていたと考えられます。

